

令和6年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

豊橋市地域公共交通活性化推進協議会 （豊橋市）

平成20年3月28日設置

平成28年3月30日 豊橋市都市交通計画策定
令和3年3月30日 豊橋市都市交通計画中間見直し
（計画期間：平成28年3月～令和7年3月）

令和5年6月28日 フィーダー系統 確保維持計画策定等

1. 【Plan】協議会等が目指す地域公共交通の姿

(1) 豊橋市の公共交通

- ・豊橋駅を中心に民間の豊鉄バスの路線網を放射線状に整備。
- ・豊川市、新城市、田原市と本市を結ぶ地域間幹線系統がある。
- ・豊橋駅には、東海旅客鉄道、名古屋鉄道、豊橋鉄道の路線が乗り入れ。
- ・交通事業者による従来の乗合型公共交通の運行が難しい地域では、地域住民がコミュニティバスを運営。支線公共交通やアクセス交通の役割を果たしている。

(2) 豊橋市地域公共交通網形成計画（豊橋市都市交通計画2016-2025）

1) 計画の期間：平成28年～令和7年度（10年間）

2) 基本理念：多様な交通手段を誰もが使え、
過度に自家用車に頼ることなく、
生活・交流ができる都市交通体系の構築

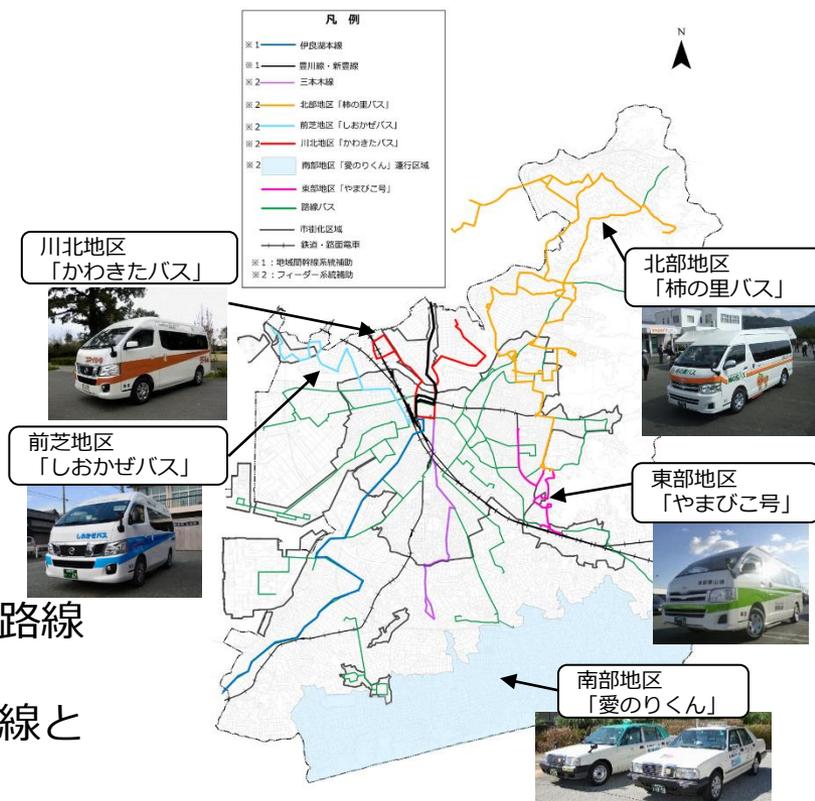
3) 基本方針

- 1：安全・安心で快適に移動できる交通づくり
- 2：まちの魅力・活力を高める交通づくり
- 3：環境・健康を意識した交通づくり

- 地域内フィーダー系統確保維持費補助路線
東部地区を除くコミュニティバス4地区、路線バス1路線

【接続状況】

豊橋駅で地域間幹線系統の新豊線、豊川線、伊良湖本線と接続及び赤岩口電停において東田本線と接続



戦略1：公共交通幹線軸の強化

★：国補助事業にかかる取組

路線バス・タクシー運転士確保支援事業

運転士就職志望者と乗合事業者とのマッチング支援を実施。令和6年度は初の試みとして、教習コースを使って実際の路線バス・タクシーを運転することができる「運転体験会」を実施した。

【実績】令和6年度は過去最多となる10名採用。

年度	R3	R4	R5	R6
応募人数	3	4	5	23
採用人数	3	1	2	10

【考察】事業に参加するハードルが高かったため、イベント型の会社説明会から気軽に参加できる流れにしたことで、応募者増加につながった。また、説明会後も就職活動サポートとして切れ目ない伴走支援を行ったことで確実な採用につなげることができた。

鉄軌道施設及び軌道敷改修に対する補助

事業者の老朽化対策を支援し、安全性を向上させた。

路線バスへのICカードの導入（令和6年度末導入予定）

路線バスの利便性を向上させるため、交通系ICカード導入を行う事業者に対し事業費を補助。（令和5～6年度で整備）

コミュニティバスキャッシュレス決済導入（令和6年度4月導入）

利便性向上のため、全線にキャッシュレス決済環境を整備。

MaaSプラットフォームの導入（令和6年10月実証開始）

愛知県、東三河8市町村及び交通事業者等が連携し交通・生活・観光の情報を繋ぐ地域MaaSを導入する実証事業を開始した。

▼運転士確保支援事業

運転が強みになる。
運転体験ができる 会社説明会開催！
2024年7月19日(金) 13:00 START



▲運転体験会



▲就職活動サポート

戦略2：地域拠点における交通結節機能の強化

★柿の里バス（コミュニティバス）のルート・ダイヤ変更

【概要】路線全体の効率化、豊川市への延伸をはじめとする地域の移動ニーズに即した運行経路等の大幅な見直しを実施。

【実績】見直し後の利用者数は約80人/月増加（前年同月比）

【考察】アンケート調査や毎月1回の地域運営団体、交通事業者との会議等によりニーズを正確に把握したことが利用者増加につながった。

利用者数	8月	9月	10月	11月	12月	合計
R6	337	461	478	404	449	2,129
R5	314	349	369	343	343	1,718

企業シャトルBaaS実証実験

企業が運行する送迎バスに市民が相乗りし、県境を跨いで新所原駅まで移動できる実証実験を湖西市と連携し実施中。

▼柿の里バス



▼企業シャトルBaaS



戦略3：まちなか交通の魅力向上

カーフリーデーイベントの実施

車に過度に依存しない生活を考える啓発パネルを展示したほか、路線バスの乗車体験、交通事業者や近隣商店街等と連携して公共交通利用を促す企画を実施。

電車・バス沿線周遊マップの制作

公共交通で行ける飲食店や娯楽施設を掲載したマップを豊鉄社員、愛知大学生と共同で制作。

2.【Do】目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

戦略4：自転車や公共交通を中心としたライフスタイルへの転換

子育て世帯をターゲットとした利用促進

利用の少ない平日昼間帯における新たな公共交通利用者の獲得及び、子育て世帯が気軽に安心して公共交通を利用できる環境づくりを目指し、市と交通事業者が連携した取組を実施。

- 子育て応援ステッカー及び車内ラッピングの制作
- 「絵本の駅」の実施

駅の改札などで自由に本が借りられる本棚の設置

- 「お出かけ講座&おはなしでん」の実施
- 木製つり輪キーホルダー製作体験

【考察】子連れでの公共交通利用に抵抗のある子育て世帯の方々が利用するきっかけとなったほか、幼い頃から公共交通に親しめる環境、地域全体で子育てを応援する機運を創出できた。

【今後の方針】既存事業を巻き込んだ取組を継続して検討するほか、効果検証の方法を検討していく。

デジタルサイクルラリー等自転車イベントの実施

サイクリングを日常的に楽しむきっかけづくりとして、「デジタルサイクルラリー」や「トレジャーサイクリング」を開催。

夏休み小学生50円バス&「公共交通をつかったオリジナルツアー大募集」「ポスター&川柳コンテスト」の開催

東三河8市町村と連携し、路線バスの利用促進イベントを実施。地域公共交通を身近に感じてもらう機会を創出した。

▼子育て応援ステッカー



▼車内ラッピング



▲絵本の駅

3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

(1) 豊橋市地域公共交通網形成計画（H28年～R7年（2016年～2025年））

目標	評価指標	目標	実績値
			上段:R5年度 下段:R4年度
目標1： 人にやさしく移動しやすい交通環境を実現する	自転車・公共交通の利用のしやすさにおいて満足と感じる人の割合	自転車40% 公共交通45%	【自転車】29.9% (34.6%) 【公共交通】40.5% (42.4%)
	歩行者・自転車が関わる交通事故件数	592件/年からの減少	312件/年 (347件/年)
目標2-1： まちづくり施策と連携した公共交通ネットワークを形成する	公共交通の1日当たり利用者数	【主要鉄道駅】 58.5千人/日平均 【路面電車・路線バス】 23.6千人/日平均 上記数字を維持	【主要鉄道駅】 52.6千人/日平均 (49.1千人/日平均) 【路面電車・路線バス】 22.0千人/日平均 (20.0千人/日平均)
目標2-2： まちなかの賑わいを創出する交通環境を実現する	中心市街地内の休日歩行者通行量	63,000人/日以上	55,758人/日 (44,555人/日)
目標3： 環境負荷軽減、健康増進に寄与する交通行動の実現を促す	市街化区域内の歩行者・自転車の利用割合	11.3%からの増加	10.7% (10.4%)

【考察】前年と比較して、公共交通の利用者数や中心市街地内の休日歩行者通行量が増加しており、コロナ禍からの回復傾向がみられた。利用者増加の一方で、自転車・公共交通利用の満足度については低下した。

【今後の方針】路線バスへの交通系ICカードの導入やMaaSなどデジタル環境の整備、地域の実情に即した公共交通の見直しを行うことで、公共交通の利便性や満足度の向上を図る。自転車においては、通行環境や駐輪環境の整備とともに、利用促進イベント等を実施することで、満足度の向上を図る。

(2) 地域内フィーダー系統確保維持計画 (R5.10.1～R6.9.30)

地区	目標値	実績値 (昨年利用者数)
北部地区 (柿の里バス)	7,200人	4,420人 (3,725人)
南部地区 (愛のりくん)	2,250人	2,112人 (2,202人)
前芝地区 (しおかぜバス)	8,000人	8,173人 (7,850人)
川北地区 (かわきたバス)	6,000人	4,912人 (4,461人)
野依地区 (豊鉄バス・三本木線)	97,000人	120,300人 (116,645人)

北部地区：新ルートの実行開始、バスツアーの実施等により、昨年比695人増加となった。新ルートでの利用実績の分析を行い、更なる需要の掘り起こし、路線の効率化を検討する。

南部地区：固定利用者の減少に伴い目標も未達となった。民生委員・関係団体等との連携を図り、情報提供や意見交換を行い、新規利用者の獲得につなげる。

前芝地区：各種キャンペーンの実施等による現利用客の固定化を図ったことにより、目標値を達成した。引き続き、広報紙の発行や沿線店舗と連携した利用促進を検討する。

川北地区：各種キャンペーンの実施等により、昨年比451人増加となった。現利用客の固定化や新規客の獲得に向けて、キャンペーンの実施や広報紙の発行などの利用促進を行う。

野依地区：通勤利用者が増加したこと等により目標値を達成した。子育て世帯への利用促進や、交通系ICカードのPRなどを実施し、新規顧客の獲得につなげる。

【今後の方針】

利用者に寄り添ったルートの見直しやミーティングポイントの見直しを検討するほか、各地区の特色を活かした利用促進等を実施する。

○課題①：自転車・公共交通の満足度が目標を達成しなかった。

→公共交通の維持・強化、利便性の向上に関する課題

今後の取組み内容：路線バスやコミュニティバスの運行改善や乗換機能の強化など満足度の向上につながる取組みを実施

①路線バスの利便性向上の推進

→ICカード導入に向けた環境整備や周知

②コミュニティバスの利便性向上の推進

→キャッシュレス決済環境の改善、利便性を向上させるルート・ダイヤの見直しの検討

③乗換機能・交通結節機能の強化

→MaaSの推進による公共交通情報へのアクセス性の向上

→自転車利用環境の整備

○課題②：地域内フィーダー系統確保維持計画の目標値に至らない地区があった。

→新たな利用者の創出及び定着化に関する課題

今後の取組み内容：路線再編の検討と利用促進の実施

①利用者の要望に応じた路線再編

→毎月の利用実績から利用状況の分析をするだけでなく、利用者アンケートの実施・分析を行い、地域の要望を踏まえながら路線再編を検討

②利用促進イベント等の実施

→各地区の特色を活かしたイベントなど、積極的に利用促進等を実施

③新たな利用者獲得

→子育て世帯の利用促進や高齢者向けバスの乗り方講座の実施など、新規利用者の獲得・定着につながる取組を検討・実施

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回 (令和6年3月21日)	<p>広域移動とバスの利用促進に向け、東三河地域の自治体と事業者その他様々な主体と連携した取組が今後も継続されることを期待します。</p>	<p>夏休み期間中の東三河地域のバス運賃を50円にするとともに、公共交通を利用するきっかけづくりとして「公共交通をつかったオリジナルツアー大募集」や「ポスター&川柳コンテスト」など新規イベントを実施した。</p> <p>MaaSについて、愛知県、東三河地域8市町村、交通事業者等で意見交換を行い地域MaaSの導入を推進した。また、カーフリーデーイベント等でMaaSの啓発及び普及を行った。</p>	<p>路線の魅力を向上させるため、東三河地域8市町村が一体となった協議会を継続的に開催し、利用促進イベントの実施等を検討する。</p> <p>MaaS推進のため、東三河の地域MaaSについて、交通・生活・観光交通情報の充実化を図るとともに、イベント等でMaaSの啓発普及を行う。</p>

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回 (令和6年3月21日)	引き続き、地域ごとの課題や特性等を勘案しながら、運行継続に向けて地域の主体的な取組が継続されること、それが可能となるよう地域に寄り添った支援が継続されることを期待します。	各地区の定例会において、利用実績の共有及び利用促進の取組の企画・実施支援を行った。 一部の地区ではアンケートを実施・分析を行い、地域の要望を踏まえながら、ルートの再編成等を実施した。	引き続き、各地区の定例会において、利用実績の共有及び利用促進の取組の企画・実施支援を行うとともに、利用者に寄り添ったルート・ミーティングポイントの見直しを検討する。
	引き続き、運転手確保対策等の地域公共交通の持続性向上や課題解消に向けた取組や支援が継続されることを期待します。	運転手確保支援事業については、令和6年度初となる「運転体験会」の実施や支援コースの充実など、参加しやすい内容への工夫や転職を考えている参加者に合わせた事業スケジュールの再検討を行った。	運転体験会の実施効果の分析やスケジュール等の事業内容を見直しながら支援を継続する。また、外部関係団体との連携や外国人雇用支援を盛り込むなど、さらなる事業拡大を検討していく。

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前々回 (令和5年3月10日)	地域間幹線系統の状況も意識しつつ、今後も東三河地域が一体となった取組の継続について引き続き期待します。	夏休み期間中の東三河地域のバス運賃を50円にするとともに、東三河地域を電車やバスで周遊するイベントを実施した。	路線の魅力を向上させるため、東三河地域8市町村が一体となった協議会を継続的に開催し、利用促進イベントの実施等を検討する。
	地域間幹線系統のうち、豊川線の一部系統については輸送量が補助要件をわずかに上回る数値となっており、沿線にて開業する大規模商業施設開業を好機と捉えた新豊線との一体的な利用促進を図り、沿線市と連携して利用者数向上に向けた取り組みに努められるよう期待します。	MaaSについて、交通事業者、愛知県、東三河地域8市町村で意見交換を行うとともに、カーフリーデーイベントや豊鉄グループ主催のデジタルスタンプラリーにおいて、MaaSの普及啓発を行った。	MaaS推進のため、東三河一体で交通データのオープンデータ化に努め、交通情報の充実化を図るとともに、MaaSアプリ内で移動目的地となる店舗や観光情報等の掲載を検討する。

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前々回 (令和5年3月10日)	<p>各地区ごとの課題や利用特性を勘案しながら、各地域の課題の解決及び、運行継続基準の達成に向けて、更に寄り添った支援をされ、地域の需要に応じた継続的な運行が実施できるよう取り組まれることを期待します。</p> <p>特に柿の里バスについては、路線のスリム化や豊川市への乗り入れの要望などがあり、地域の声や課題に寄り添って向き合い、着実に対応されるよう期待します。</p>	<p>各地区の定例会において、利用実績の共有及び利用促進の取組の企画・実施支援を行った。</p> <p>一部の地区ではアンケートを実施・分析を行い、地域の要望を踏まえながら、ルートの変更等の検討を行った。</p> <p>柿の里バスの豊川乗り入れについては、利用者アンケート及び一部地域への住民アンケートを実施し、その意見を基に地域運営団体・交通事業者、本市で議論を行い、ルート・ダイヤの作成等を進めた。</p>	<p>引き続き、各地区の定例会において、利用実績の共有及び利用促進の取組の企画・実施支援を行うとともに、利用者に寄り添ったルート・ミーティングポイントの見直しを検討する。</p> <p>柿の里バスについては、更に議論を行い、ルート・ダイヤ等を固め、令和6年度上期中の運行開始を目指していく。</p>

6.計画・評価の推進体制

〈年間単位の進捗管理、評価スケジュール〉												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
協議会			①					②			③	
主な行事		(確保維持改善計画)	◆				次年度予算要求				(第三者評価委員会)	◆
実施すること	前年度事業評価に基づく改善と反映			次年度事業計画の検討						今年度事業の検証	実施状況の確認、評価 課題の共有、改善検討	
		事業実施										改善検討
部会					(必要に応じて実施)							

【協議会の実施状況】

第1回協議会 令和6年6月5日

主な議題：地域内フィーダー系統確保維持計画の策定について

第2回協議会 令和6年8月28日（書面協議）

主な議題：令和6年度企業シャトルBaaS実証実験事業（案）の実施について

第3回協議会 令和6年11月20日

主な議題：地域公共交通確保維持改善事業・事業評価について

第4回協議会 令和7年2月19日

主な議題：事業計画及び収入支出予算について

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年11月20日

協議会名: **豊橋市地域公共交通活性化推進協議会**

評価対象事業名: **豊橋市地域内フィーダー系統確保維持計画(地域公共交通確保維持事業のうち地域内フィーダー系統関係)**

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>【補助対象となる事業者名等の名称を記載】</p>	<p>【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載】</p>	<p>【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】</p>	<p>A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】</p>	<p>A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】</p>	<p>【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載</p>
<p>豊鉄タクシー(株)</p>	<p style="text-align: center;">北部地区(柿の里バス)</p> <p>石巻西川・賀茂線/下条・森岡線(下)(第2便)</p> <p>石巻西川・賀茂線/下条・森岡線(下)(第4便)</p> <p>石巻西川・賀茂線/下条・森岡線(下)(第6便)</p> <p>石巻西川・賀茂線/下条・森岡線(下)(第4便、第6便)</p> <p>石巻西川・賀茂線/下条・森岡線(上)(第7便)</p> <p>石巻西川・賀茂線(上)(第3便)</p> <p>下条・森岡線(上)(第5便)</p> <p>石巻西川・賀茂線/下条・森岡線(上 石老福通過)(第1便)</p> <p>石巻西川・賀茂線/下条・森岡線(上 赤岩口)(第9便)</p> <p>柿の里萩平・豊川駅東口系統</p> <p>豊川駅東口・豊橋医療センター系統</p> <p>石巻中山・豊川駅東口系統</p> <p>石巻中山・豊橋医療センター系統</p> <p>石巻中山・豊橋医療センター系統</p> <p>石巻中山・豊川駅東口系統</p> <p>石巻中山・豊橋医療センター系統</p> <p>豊川駅東口・豊橋医療センター系統</p> <p>石巻中山・豊橋医療センター系統</p> <p>豊川駅東口・豊橋医療センター系統</p> <p>豊川駅東口・賀茂西系統</p>	<p>・東三河8市町村内で「夏休み小学生50円バス」を実施し、広域移動をしやすい環境づくりを行うとともに、「公共交通をつかったオリジナルツアー大募集」「ポスター＆川柳コンテスト」を同時期に開催し、各地域内の路線及び地域間幹線の利用促進を図った。</p> <p>・「夏休み小学生50円バス」実施に合わせ、夏休み期間中の小中学生の乗車運賃を運営団体に負担し、普段コミュニティバスに接する機会が少ない年齢層の利用を呼びかけた。</p> <p>・利用者増加に向けた路線のスリム化、豊川乗り入れについて、アンケート結果や地元の声を基に、地域運営団体・交通事業者・豊橋市で新ルート案について議論を重ね、R6.8月にルート変更を実施した。</p> <p>・定例会において、利用実績を共有するとともに、利用促進の取り組みの企画・実施支援を行った。</p> <p>・啓発チラシ、会合での周知活動、本協議会への取組報告等を行った。</p> <p>・シャインマスカット収穫体験ツアー、栗の収穫体験&モンブラン作りツアー、柿狩り&連縄作りツアー、いちご狩り&いちご大福作りツアーを実施した。</p>	<p>A 補助対象期間中は、所定の事業計画通りの運行が実施された。</p>	<p>【達成状況】 豊橋市北部地区の目標は、年間(R5.10～R6.9)の利用者数を7,200人としており、年間の利用者数は4,420人と目標は達成されなかったが、バスツアーの実施等、利用促進に努めながら、高齢者の方の通院・買物など生活の足を守ることができた(昨年比で695人増加)。さらに、普段柿の里バスを使わない層にも周知することができた。</p> <p>【要因】 新ルート運行開始、バスツアーの実施により、利用者数は増加したが、コロナ前の水準まで回復するには至らなかった。豊川への延伸、新たなバス停の設置により、新規の利用者が少しずつ増えているため、今後も利用促進、周知を徹底し、需要の掘り起こしをしていく。</p>	<p>・新ルートでの利用実績を分析し、路線の効率化等を検討する。</p> <p>・地元の特産品を活かしたバスツアーを実施するなど、柿の里バスを知らない人、利用したことがない人に対して周知を行う。</p> <p>・地域運営団体で沿線企業や事業所を回り、車両広告収入を確保することで、今後も地域全体でバスを支える取組を実施する。</p> <p>・地域の集まりや行事に地域運営団体が出向き、PRブースを設置し、チラシの配布や、現状の説明を行う等、今後とも呼びかけを行う。</p> <p>・以上の取組により、次年度も北部地区の当面の目標である年間利用者数7,200人を目指す。</p>

東海交通(株)	南部地区(愛のりくん)	高根・芦原	<ul style="list-style-type: none"> ・東三河8市町村内で「夏休み小学生50円バス」を実施し、広域移動をしやすい環境づくりを行うとともに、「公共交通をつかったオリジナルツアー大募集」「ポスター&川柳コンテスト」を同時期に開催し、各地域内の路線及び地域間幹線の利用促進を図った。【再掲】 	A	補助対象期間中は、所定の事業計画通りの運行が実施された。	B	<p>【達成状況】</p> <p>豊橋市南部地区は、年間(R5.10～R6.9)の利用者数2,250人を目標としていたが、2,112人であり目標は達成されなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・過去のアンケート分析や利用実績をもとに、利用方法・運行内容などに対する課題抽出・改善施策を検討する。また、乗合率を高めるために、移動需要に応じたミーティングポイントの見直しや、より有効な利用時間帯について検討する。 ・引き続き民生委員や関係団体等と連携し、利用状況の情報共有や意見交換などを行う。 ・利用者登録の申込書の配布や、地域が作成する広報紙の発行により住民への周知を行い、新規利用者を獲得する。 ・以上の取組により、南部地区の目標である年間利用者数2,300人を目指す。
		豊南・大清水	<ul style="list-style-type: none"> ・定例会において、利用実績を共有するとともに、利用促進の取り組みの企画・実施支援を行った。【再掲】 					
		細谷・二川	<ul style="list-style-type: none"> ・啓発チラシ、会合での周知活動、本協議会への取組報告等を行った。【再掲】 					
		小沢・二川	<ul style="list-style-type: none"> ・現行の利用方法や運行内容に対する要望について役員会議で意見交換を行った。 					
	前芝地区(しおかぜバス)	梅萺前芝線	<ul style="list-style-type: none"> ・東三河8市町村内で「夏休み小学生50円バス」を実施し、広域移動をしやすい環境づくりを行うとともに、「公共交通をつかったオリジナルツアー大募集」「ポスター&川柳コンテスト」を同時期に開催し、各地域内の路線及び地域間幹線の利用促進を図った。【再掲】 ・定例会において、利用実績を共有するとともに、利用促進の取り組みの企画・実施支援を行った。【再掲】 ・啓発チラシ、会合での周知活動、本協議会への取組報告等を行った。【再掲】 ・豊橋まつり臨時運行を実施した。 ・利用者9万人、9.5万人達成キャンペーン、運行開始10周年感謝キャンペーンを実施した。 	A	補助対象期間中は、所定の事業計画通りの運行が実施された。	A	<p>【達成状況】</p> <p>豊橋市前芝地区の目標である、年間(R5.10～R6.9)の利用者数8,000人に対し、年間の利用者数8,173人となり目標を達成した。</p> <p>【要因】</p> <p>豊橋まつりに伴い、しおかぜバスの土日臨時運行を実施したほか、利用促進チラシを発行し、バス沿線の主要施設の紹介やキャンペーンのお知らせなどについて積極的に周知を行った。また、利用者9万人、9.5万人達成キャンペーンや、運行開始10周年感謝キャンペーンを実施し、現利用客の固定化を図った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者10万人達成キャンペーン等の実施や、地域が作成する広報紙の発行により、現利用客のさらなる固定化を図る。 ・令和6年10月の豊橋まつりにおいても、土日臨時運行実施を検討し、新規顧客の獲得につなげる。 ・新たな利用促進策として、バス沿線施設と連携した割引券の発行やバス回数券の配布などを検討する。 ・以上の取組により、次年度は前芝地区の目標である年間利用者数8,200人を目指す。

東海交通(株)	川北地区 (かわきたバス)	下地・津田～大村系統	<p>・東三河8市町村内で「夏休み小学生50円バス」を実施し、広域移動をしやすい環境づくりを行うとともに、「公共交通をつかったオリジナルツアー大募集」「ポスター＆川柳コンテスト」を同時期に開催し、各地域内の路線及び地域間幹線の利用促進を図った。【再掲】</p> <p>・「夏休み小学生50円バス」実施に合わせ、夏休み期間中の小学生の乗車運賃を運営団体に負担し、普段コミュニティバスに接する機会が少ない年齢層の利用を呼びかけた。【再掲】</p>	A	補助対象期間中は、所定の事業計画通りの運行が実施された。	<p>【達成状況】 豊橋市川北地区の目標は、年間(R5.10～R6.9)の利用者数を6,000人としていたところ、4,912人と目標は達成されなかったが、利用促進イベント等の実施により、昨年比451人増まで回復している。</p> <p>【要因】 1年ぶりに牛川の渡しツアーが実施できたほか、回数券の割引販売や感謝キャンペーンなどの利用促進事業を積極的に実施した。また、月1回発行するスマイル号通信では、沿線施設の紹介や乗り継ぎ案内等の情報を掲載し、新規利用者の獲得に向けて、周知しているところである。</p>	<p>・地域の特性や魅力を地域内外に発信するツアーや各種キャンペーンを今後も継続して実施するなど、積極的な利用促進を図る。</p> <p>・沿線付近にある豊橋創造大学との連携を進め、利用促進を図っていく。</p> <p>・老人クラブ等地域関係団体と連携し、バス利用の呼び掛けを行い、利用促進を図る取組を実施する。</p> <p>・以上の取組により、次年度も目標である年間利用者数6,000人を目指す。</p>
豊鉄バス(株)	野依地区	三本木線(くすのき特別支援学校)	<p>・東三河8市町村内で「夏休み小学生50円バス」を実施し、広域移動をしやすい環境づくりを行うとともに、「公共交通をつかったオリジナルツアー大募集」「ポスター＆川柳コンテスト」を同時期に開催し、各地域内の路線及び地域間幹線の利用促進を図った。【再掲】</p>	A	補助対象期間中は、所定の事業計画通りの運行が実施された。	<p>【達成状況】 豊橋市野依地区の年間(R5.10～R6.9)目標利用者数である97,000人に対し、年間の利用者数は120,300人と目標は達成された。(昨年比で3,655人増加)</p> <p>【要因】 行動制限緩和により、通勤・通学利用者や沿線住民の通院や買い物などで利用者が増加した。</p>	<p>・路線全体の利用者をさらに増やすために、自治会等に利用促進の働きかけを行うほか、公共交通マップやあなたのまらの時刻表、お得な乗車券などのPRチラシを配布する。</p> <p>・引き続き、子育て支援施策と連携するなど新規利用者獲得に向けた取組を検討・実施する。</p> <p>・以上の取組を踏まえ、次年度の目標を117,300人とするものの、利用状況を観察しながら120,300人の実績を下回らないよう、利用促進に努めていく。</p>
		大村～下地・津田系統	<p>・定例会において、利用実績を共有するとともに、利用促進の取り組みの企画・実施支援を行った。【再掲】</p> <p>・啓発チラシ、会合での周知活動、本協議会への取組報告等を行った。【再掲】</p> <p>・利用促進事業として、牛川の渡しツアー、回数券の割引販売、感謝キャンペーンを実施した。</p>				
		三本木線(野依)	<p>・公共交通マップを配布した。</p>				

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和6年11月20日

協議会名:	豊橋市地域公共交通活性化推進協議会
評価対象事業名:	豊橋市地域内フィーダー系統確保維持計画
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>交通不便地域における交通手段の確保を図る。</p> <p>豊橋市では、平成28年3月に「豊橋市地域公共交通網形成計画」(以下「形成計画」という。)を策定し、基本理念として掲げた、「多様な交通手段を誰もが使い、過度に自家用車に頼ることなく生活・交流ができる都市交通体系の構築」を実現するための事業展開を図っている。この形成計画では、市郊外部の交通不便地域における「交通結節点へのアクセス性の向上」の取組として、バス路線の維持や、コミュニティバス(「地域生活」バス・タクシー)の運行を実施事業として掲げている。</p> <p>豊橋市地域内フィーダー系統確保維持計画では、形成計画に掲げる実施事業を着実に行うことにより、交通不便地域に居住する市民の日常の移動手段を確保することを目的としている。</p>